

浄泉寺



外観 (子ども会の様子)



本堂

浄泉寺は浄土真宗本願寺派(西本願寺)のお寺で、正式には「浄土真宗本願寺派吉見布教所浄泉寺」といいます。浄土真宗本願寺派では全国に一万を超すお寺がある一方、東京首都圏にお寺がまだまだ少ないことから、仏法に出遇うご縁を少しでも増やそうと、お寺を新たに開設する都市開教に取り組んでいます。浄泉寺も都市開教のため、二〇一一(平成二十三)年七月一日に新設されたお寺です。平成二十四年十一月現在、借家での運営を続けており、外観を見て驚かれる方もいらつしゃいます。

吉見布教所浄泉寺のルーツは富山県中新川郡上市町の浄泉寺、そしてさらにそのルーツである福泉坊にさかのぼることができます。浄泉寺の礎を築いた僧、福泉坊は寺伝によれば一四九三(明応)二年、蓮如上人より南無阿彌陀仏の六字名号を下附され、続いて一貫代の大きさの阿彌陀如来の絵像本尊(冥加金一貫で求められるご絵像)が下附されたことが記録に残されています。ここに、本願寺の末道場、福泉坊が誕生したと考えられます。福泉坊という坊号は僧侶個人の名前であると同時に、後年、浄泉寺と名乗る前の道場の名称でもありました。平成の御代に浄泉寺の末裔である釋学誠が、宗教法人を既に解散された旧紫雲寺様の御本尊、阿彌陀如来像を御遷仏させていただき、埼玉県比企郡吉見町に一字の房舎を借りて活動を始めたのが、吉見布教所浄泉寺です。地方の過疎とともにお寺の解散が進む一方、都市部ではお寺が新たに生まれ、栄枯盛衰を見る思いです。

この地で活動をはじめた大きな理由のひとつは、富山県浄泉寺のひとり

のご門徒さんがこの吉見町と縁が深かったということがあります。新たな地で活動を始める不安にわたしが悩んでいたとき、その方は「そういうことならわたしが協力しよう、そして門徒になろう」と声をかけ、その後ずっと励ましてくださいました。その励ましがいまのわたしの活動の原動力につながっています。寺院は住職ひとりで活動するものではありません。ご門徒さんと住職の協同です。だからこそご門徒が元気なお寺にしたいと、わたしは考えています。

「念仏とは自我が崩壊する音」(金子大栄)といわれるように、自尊心や自我が消え去らないまま雲散霧消していく味わいを、わたしたちの先人はそれぞれの生涯をかけて守り通してくださいました。自分の目を通してしか見ることのできない狭い世間で生きるわたしに、阿彌陀如来がなぜ願いをかけてくださるのかを聞く場として、お寺は今後ますます必要とされる時代になっていくでしょう。わたしたちの時代でもそれぞれの立場で生涯をかけて、お念仏の味わいを後世に伝える取り組み、それが全員聞法、全員伝道なのだと思います。

浄泉寺では毎月第三金曜夜に「はじめての歎異抄講座」を開催し、ヨガインストラクターでもある坊守が主催するヨガサークルも毎週活動が続いています。地域の子どもたちには「わくわく子ども会」も人気です。活動にご興味のある方はホームページをのぞいてみてください。